

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	衣料品専門店（店長）	・気に入った商品を厳選する傾向は変わらないが、来客数が増えてきており、たんす在庫にはない魅力ある商品提案が実を結びつつある。
		乗用車販売店（経営者）	・秋に小型自動車、軽自動車それぞれ1車種のモデルチェンジが予定されている。また、コンパクトカーやミニバンの人気車種の好調さが継続する。
		その他専門店〔化粧品〕（経営者）	・ガソリン価格の高騰を背景に、車で郊外に買物に行く回数やや減少し、公共交通機関や自転車、徒歩で中心街区まで来て買物をするという客の動きが以前より増加する。
		住宅販売会社（従業員）	・現在の受注状況では、前年を上回る見通しであり、高額物件も入っている。
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・周辺地域の新たな大型商業施設の誕生に抜本的対応策を打ち出しかねている。中央資本の飲食店の撤退もうわさされ、跡地決定が遅れているのも大きな問題となっている。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	・現在の状況からすれば、行楽の写真プリントは少なくなるものの、カメラの販売は新製品の発売もあり期待できる。
		百貨店（企画担当）	・これからも物価上昇が予想され、消費者マインドが低い状況は続く。6月以降、東北では大きな地震が多発しているが、影響が早く沈静化することを願っている。
		百貨店（経営者）	・ボーナス支給額の減少、物価上昇などにより、消費意欲が減退する。特に、バーゲン終了後の売上は大きく落ち込む。
		スーパー（店長）	・メーカーから食料品値上げの要請が頻繁にあり、今後も購買点数が伸びず、買い控えの状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・値段が安い商品に売れ筋がシフトしているため、客単価は回復しない。
		衣料品専門店（店長）	・原油高騰による物価上昇は続き、今後もビジネスウェアの買い控えが続く。
		衣料品専門店（総務担当）	・ガソリンや食料品の値上げに伴い、趣味の要素が強いゴルフ用品が不振であり、今後も消費は控えめに動く。
		乗用車販売店（経営者）	・目立った新型モデルの予定もなく、ガソリン価格上昇も歯止めが掛からないため、自動車保有数の減少が懸念される。買換えが進む一方で廃車も増えるなど、良くて現状維持と予想している。
		住関連専門店（経営者）	・あらゆる物の値段が上がリ、消費者マインドがますます冷え込んでいくため、景気回復はしばらく見込めない。
		その他専門店〔呉服〕（経営者）	・値上がりムードのため、品物は売れない。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・8月もガソリンの値上げが予定されており、先行きに対する期待感はない。最近、季節のずれを感じており、衣替えも一斉に行われなくなったことから、売上にもばらつきが生じる。
		高級レストラン（経営者）	・地方では景気上昇がほとんどみられないまま、あまり良くない状況が続いていたため、これ以上悪くなることもなく進んでいく。
		高級レストラン（支配人）	・宿泊部門とレストランの状況は変わらず、婚礼が伸びている。一般宴会を今後どのように増やしていくか課題となっている。
		観光型ホテル（経営者）	・8、9月は前年並みとなる見込みであるが、旅行シーズンである10月以降の伸びが少ない。岩手・宮城地震の発生後にキャンセルした客は徐々に戻ってきている。
		美容室（経営者）	・来客数は同数で推移しており、今後も同じ状況が続く。
美容室（経営者）	・ガソリン価格や物価高騰の状況が変わらない限り、景気回復は見込めない。		
やや悪くなる	やや悪くなる	商店街（代表者）	・政治や経済の状況から、景気が良くなる材料が見当たらない。
		商店街（代表者）	・景気低迷からの回復気配がないなかで、オリンピックが開幕すれば、テレビ観戦のため、特に飲食店の夜の時間帯の客足が遠のき、マイナス要素が加わる。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・周囲では多くの事業者がぎりぎりのやりくりをしている様子がみられ、今後は淘汰が現実的に進んでいきそうである。また、職から離れた人々の購買力は、確実に低下していく。
		百貨店（営業担当）	・秋、冬場に暖房光熱費が掛かる寒冷地では、このまま原油高の傾向が続けば他の支出を削らざるを得ない。し好みや高額衣料、雑貨は間違いなく削られる対象となる。

百貨店（販促担当）	・更なる物価の上昇や8月から始まるオリンピックの影響により来客数の減少が予想される一方、秋物商戦の好材料が今のところ見当たらない。
百貨店（売場担当）	・原油高騰や食料品が値上げするなか、一番抑えるべきものは衣類であり、「あってもいい」という考えは「なくてもいい」に変わってきている。また、9月は厳しい残暑が予想されているため、秋冬物に大きな動きが出ることは考えにくい。
百貨店（経営者）	・食料品の値上げ、ガソリンの高騰、公共料金の値上げなどが相次ぎ、購買意欲が低下している。
スーパー（経営者）	・商品原価が上昇するなか、売価を値上げせざるを得ない。
スーパー（経営者）	・収入が増える可能性がないなか、原油価格の高値安定や、物価上昇が今後も続けば、必然的に生活防衛の動きが出てくる。食料品を中心にシビアな買物をする状況が続く。
スーパー（店長）	・収入が変わらないなか、物価が上昇し、家計は切り詰めるところがない状況にある。これから灯油が必要となる季節となれば、消費者は暖房費のねん出に苦しむことになる。
スーパー（総務担当）	・8月はガソリンの他、乳製品関係などの価格が大きく上昇するため、家庭内食事、弁当などの商材は落ち込まないが、他は極めて厳しくなる。また、少々価格が安くても余分な買物は、一層少なくなり、買上点数が更に大きく減少する。
コンビニ（エリア担当）	・郊外の観光地は明らかに客が減っている。一方、近郊のショッピングセンターは、車が入りきれないほど、人が入っている状況にある。ガソリン価格の高騰などに伴い、遠出を控える動きがあり、不安要因が残る。
衣料品専門店（店長）	・物価が上がると衣・食・住の「衣」から削られる傾向があり、今後の物価や賃金の動向が非常に気になっている。
乗用車販売店（経営者）	・レギュラーガソリンの小売価格が200円近くまで上昇すれば、乗り控え、買い控え、行動控えにより不景気が一気に加速する。
住関連専門店（経営者）	・原油高によるガソリン等の価格高騰や、相次ぐ地震の影響により、客の買い控えがある。
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・現在、清酒の値上げが少しずつ発表されている。値上げは、9月後半から10月にかけて、業界一斉ではなく蔵元ごとに行われるが、その時期は一時的に売上の落ち込みが予想される。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・あらゆる品物が値上げとなる一方で、所得が上がらず、使える金額が決まっているので、今後、値上げが進行すれば、業界として深刻な状況になる。
一般レストラン（経営者）	・景気の悪さや上向かないことに慣れていたつもりであったが、最近では、更にトーンダウンしている。客や業者、タクシーの運転手、友人など周囲の人々が、景気の悪さや将来に対して不安を募らせている。
一般レストラン（スタッフ）	・ガソリン価格が上昇するうちは、外食産業、特に車の利用者が多い郊外店への影響は大きい。
観光型旅館（経営者）	・前年同月並みにしたいが、岩手北部地震や水害による風評被害により、客の出控え気分は免れ得ない。そのため、新幹線や高速バスの早見表や乗り継ぎプランのチラシを早めに多く作成したいと考えている。
都市型ホテル（経営者）	・ここ2、3か月の来客数が減少している。以前は、来客数はそれほど変わらず、単価のダウンが気になっていたが、現在は、来客数、客単価共にダウンしており、この状況が続けばかなり悪い状態となる。
都市型ホテル（スタッフ）	・原油原材料高、先行き不安などにより、多方面で出費を抑えてきている。
旅行代理店（従業員）	・燃油サーチャージなど、原油価格に左右される原価の上昇や、食料品など、その他一般消費財の高騰により、海外旅行ばかりでなく、国内旅行の足も止まってしまう傾向にある。
タクシー運転手	・岩手・宮城地震の影響が、旅行者や長距離客がだんだん少なくなっている。
タクシー運転手	・客から、最近では原油高が響いて景気が悪いという話をよく聞く。また、日中のマイカー数が少なくなってきている。
テーマパーク（職員）	・来客数、客単価が7月以降急落している。
遊園地（経営者）	・秋にかけて、アウトレットモールなど新しい商業施設がいくつもオープンする予定であり、競争の激化に伴い他の業種への影響も懸念される。

	悪くなる	商店街（代表者）	・ 8～10月にかけ大型商業施設が相次いで開店するため、状況は一段と厳しさを増してくる。現在、シャッターが閉まった店は、80店舗中2店舗のみであるが、今後は予断を許さない状況になる。このような外部要因により、前年比で15～30%ダウンを覚悟している。
		百貨店（経営者）	・ 残暑が予想されるなか秋物プロパー品は簡単には売れそうもなく、気温が下がったとしても灯油価格の上昇が消費不振につながる。現在は季節的に灯油消費量が少ないが、灯油価格の上昇により今後確実に景気が悪化する。
		スーパー（経営者）	・ 原油、ガソリン、食料品、日用雑貨が値上げ基調であり、年末にかけて価格が更に上昇するのは確実である。所得が上がらない分、家計が圧迫されるため、客単価の下落傾向が顕著となる。
		スーパー（経営者）	・ 8月から食料品などの値上げが行われ、今後の2か月間で、再値上げ、再々値上げが行われる。
		スーパー（店長）	・ ガソリンの高騰で帰省客の減少が予想され、物価高の影響もあり、消費が冷え込む可能性が高い。
		コンビニ（経営者）	・ ガソリンや食料品価格の上昇により、来客数はますます減少する。
		コンビニ（経営者）	・ 毎月、毎週のように商品が値上がりしている。ガソリン価格の先行きも不透明である。
		衣料品専門店（経営者）	・ ガソリン高や食料品の値上げの影響により、客は外出を抑えるようになり、買物も慎重になる。
		衣料品専門店（店長）	・ 秋物が本番となるが、原油高騰の影響で冬に向けた生活防衛の傾向が強まる。
		乗用車販売店（経営者）	・ ガソリンを始めとした諸物価の高騰が家計を直撃しており、法人においてもコスト削減が限界に近づいている。最近相次いだ地震の風評被害により、観光シーズンにもかかわらずキャンセルが相次ぎ、県内のムードを一層悪くしている。したがって、景気浮揚の期待が全く持てない状況になっている。
		乗用車販売店（経営者）	・ ガソリン、日用品、食料品の値上げに関する報道もあり、購買意欲はどん底まで落ちる。
		住関連専門店（経営者）	・ 原油高に伴い、原材料や食料品価格が高騰するなか、賃金が上がらないため、耐久消費財の売上は徐々に厳しくなっていく。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・ ガソリン価格の上昇と比例して、消費者の買い控えの勢いは止まることがなく、2、3か月先も改善する兆しは全くみえてこない。例年、お盆を過ぎると更に静かになるため、景気回復の期待は全くできない。
		一般レストラン（経営者）	・ 原材料費が上昇する一方で、税金が安くならず、収入も上がらない状況が続いており、我々のような家族経営ならばまだ良い方であるが、他店では従業員への給料の支払が大変であると聞いている。このような状況のなか、景気が良くなる要素はない。
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・ ガソリンなどの高騰に伴い、あらゆる商品の原材料価格が上がるため、客の節約がますます進み、売上は落ちる。
		観光型旅館（経営者）	・ 最近の地震や、ガソリン、食品などの値上げラッシュにより、遊興関係や旅行には目が向かなくなっている。景気が悪化する理由ばかりで上向くことは期待できない。
		観光名所（職員）	・ 前年同時期と比較して、予約客、フリー客が大幅に減少している。ガソリン価格に明るい兆しが見えない状況のなか、団体、フリー客共に増加する見込みはなく、悪くなる一方である。
観光名所（職員）	・ 風評被害などの影響がすぐに回復するとは考えられない。		
競艇場（職員）	・ 原油価格の高騰に伴い物価が上昇し、消費を控える傾向となることから、娯楽に対してお金が回らず、景気が全体的に悪くなる。		
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる 変わらない	-	-
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・ 新しい設備を導入したが、取引が増える要素はない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・ 全体的な原材料高騰のしわ寄せが中小企業を直撃しており、直接的な支援でもない限り良くならない。
		建設業（経営者）	・ 資材から食料品まで物価上昇が続く限り、景気は良くならない。
		経営コンサルタント	・ 産地偽装や食料品の値上げ傾向に伴い、消費者の買い控えが続く。

	司法書士	・地方では不動産取引数が低迷して久しく、住宅着工件数も良く横ばいといった状況にあり、景気が回復する材料が乏しい。	
	その他企業〔管理業〕 (従業員)	・ガソリンなど燃料価格の高騰が落ち着くまで、この状態はしばらく続く。	
やや悪くなる	農林水産業(従業者)	・ももやりんごなど果樹は順調に生育しているが、ガソリン高などにより景気が悪化するなか、前年並みの注文を確保できるか心配している。	
	食料品製造業(経営者)	・ガソリンや調味料など、生活必需品が軒並み値上げしていることを考えれば、今後、更に深刻な問題として、景気に影響してくる。	
	建設業(企画担当)	・宮城県内及び周辺への企業進出が一気に具体化し仕事量が大きく伸びているが、各種材料の値上がりや手持工事のスライド問題などにより増量イコール増益にならない。	
	輸送業(経営者)	・燃料、タイヤ、車価などのコスト上昇が予定されているが、料金交渉が進んでおらず、それによる収益悪化が予想される。	
	金融業(広報担当)	・レジャーや外食に回せるお金がますます減ってきている。経済全体が縮小するなかで、現在の生活を維持するのが精一杯であり、景気が良くなることは考えられない。	
	広告業協会(役員)	・オリンピック商戦でも大型テレビなどの売行きが芳しくないため、下期も受注件数が少なく厳しい状況が続く。	
	広告代理店(経営者)	・ガソリンの高騰などにより郊外型の大型スーパーに行く回数が減少し、消費意欲が減退している。その結果、広告への投下量が減少する。	
	新聞販売店〔広告〕 (店主)	・折込チラシはマーケティングや売上動向をみて依頼の状況が決まるが、最近、その依頼数が不安定で、少なくなりつつあることから消費の減速、お金の回りが悪くなっている傾向を感じとれる。	
	公認会計士	・取引先では内部での原価削減により利益を出している状況であるが、原材料や燃料価格の上昇に伴う収支の悪化が予想される。	
	悪くなる	繊維工業(営業担当)	・諸物価の高騰により、消費者は買い控えが続く。
出版・印刷・同関連産業(経理担当)		・原材料、ガソリン等の値上がり分を取引先に転嫁できていないため、収益状況が悪化している。競争が激しいなか、回復するのは困難である。	
一般機械器具製造業(経理担当)		・自動車部品については、北米市場の悪化が長引くことが予想され、さらには原材料価格高騰によるコストアップ、円高の定着などにより、採算面でも悪化傾向にある。	
その他非製造業〔飲食料品卸売業〕(経営者)		・メディアで値上げ情報が連日報道されているが、当社でも12月まで値上げの予定がびっしりと決められている。	
	協同組合(職員)	・半導体製造や自動車関連の業種などでも先行きが非常に不透明であり、明るい材料が見当たらない。	
雇用 関連	良くなる	-	
	やや良くなる	-	
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・優秀な若手の人材確保は、企業の生命線であることから、今後大きく落ち込むことはない。
		職業安定所(職員)	・新規求人数の減少傾向は、今後もしばらく続く。
	やや悪くなる	職業安定所(職員)	・4月に発生した県内大手建設会社倒産の影響により、今月には建設資材販売会社が民事再生法の手続きをとっている。その他にも、依然として続く燃料費の高騰により、企業の倒産、廃業が更に増えてくる。
		職業安定所(職員)	・建設業や、スーパー、機械部品製造業で、今後2~3か月の間に100~200人規模の解雇を実施する企業がみられる。
		職業安定所(職員)	・平成21年3月の新規高校卒業予定者の求人数も前年度実績を下回っている。
		職業安定所(職員)	・事業所訪問で、原材料の高騰により四苦八苦している事業者や希望退職者を募っている事業者を目の前にすると、景気が上向き可能性は低いと考えざるを得ない。
悪くなる	人材派遣会社(社員)	・日雇い派遣の規制強化や、派遣社員から直接雇用への切替えなどから注文数が前年比で半減しており、3か月先の見通しは悪くなるとしか考えられない。	